

(15) 都市ガス業

19 / 18 20 / 19 伸び率10%以上 ● 伸び率0 ~ 10%
: 天気図マーク; ● 伸び率0 ~ 10% 伸び率 10%以下

1 . 企業経営動向

(1) 都市ガス需要動向

平成19年度の都市ガス大手 3 社のガス販売量は、前年度に比べ721百万 (46MJ / 換算。以下同じ。)増加し、23,445百万 (前年度比3.2%増)となる見込み。

これを用途別に見ると(平成20年度供給計画ベース) 業務用は、新規需要の開発や既存物件の稼働増等により、前年度比3.9%の増加。家庭用は、需要期である冬場の気温が低めに推移したことによる給湯・暖房需要の増から同1.3%の増加の見込みである。

平成20年度のガス販売量については、家庭用・業務用ともに積極的な需要拡大努力を織り込み、全体としては前年度比1.2%の増加を見込んでいる。

(2) 中期の見通し

ガス販売量については、他燃料との競合の激化等厳しい環境にあるものの、家庭用では、床暖房等の生活質的向上に伴う新たな需要、都市ガスの一層の普及拡大を図っていくことを前提に、また業務用については、地球温暖化対策への対応とし環境性に優れる都市ガスのビル冷暖房・コージェネレーション分野での利用の拡大・促進、発電分野における需要拡大等の販売努力を考慮した結果、今後5年間(平成20年度から24年度まで)の年平均伸び率は、家庭用0.7%の増加、業務用2.3%の増加と全体では1.9%の増加が見込まれている。

(3) 企業業績

都市ガス大手 3 社の平成19年度決算は、経常利益が1,114億円となり、前年度と比較して51.0%の減益となる見込み。

これは、売上高については、家庭用、業務用ともに販売量が増加するほか原料費調整制度に基づく料金単価調整等により2兆5,167億円、前年度比6.9%増の見込みに対し、経常費用については、原料価格の上昇に伴う原材料費の増加により2兆4,457億円、同13.1%の増となる見込み。

2 . 設備投資動向 (グラフ 1 参照)

(1) 平成19年度実績見込額

19年度の設備投資実績見込額は、ほぼ前年度並みで、生産能力増強を主な目的としてH18FY-H19FY共通回答企業ベース24社では、2,593億円(前年度比 0.1%)となった。

(2) 平成20年度計画

20年度の設備投資計画額は、生産能力の増強を中心に、H19FY-H20FY共通回答企業ベース24社で総額2,814億（対前年度比+8.5%）を計画している。

3．長期資金調達・運用動向

（1）長期資金運用動向

19年度実績見込では、調達資金の殆どを短期資金への振り替えに充当していた（77.4%）が、20年度計画では58.7%を設備投資資金に活用させる。

（2）長期資金調達動向

19年度実績見込も20年度計画も必要資金に対し、主として内部資金（69.1%、61.4%）から調達している。20年度計画では、社債による調達（26.3%）が計画されている。

（グラフ1：設備投資の前年度比の推移）

